

世田谷村日記

石山修武

九月十一日 日曜日

午前中投票へ。投票所にはこれ迄にない人の集まりや行列があつて何か変だぞの風がある。世田谷文学館で紅茶飲んで一休み。十九時よりTVの前に釘づけになり、選挙速報。開票と同時に出口調査が報じられ、地崩れ的な民主敗北、小泉自民大勝が報じられる。そのままアレヨ、アレヨという間に勝敗が決してしまふ。

九月十二日

一夜明ければ、世はなべて事もなし。でも、しかし、この選挙での我々の集团的ブレ方は危いところがある。しかし、歴史の節目になる大事件である。

伊豆西海岸松崎大沢温泉ホテルの依田博之氏から、手紙、資料届く。井伏鱒二、三浦哲郎、山口瞳各氏の大沢へのエッセイも送られてくる。今和次郎と大沢温泉との縁も解った。今和次郎は東奥義塾で学んだとの事。東奥義塾はモスクワの若松氏の祖父の創設と聞いているから、多分若松氏と今和次郎は何処かでつながっているのかも知れない。随分前になるが青森に馬の博物館を作りたいという人が居て、呼ばれて行った事があるのを思い出したりもした。あの時も今和次郎の話が出た記憶がある。

三人の文士の大沢温泉に関するエッセイは三様で面白かった。高校時代同級生に文士の息子が多かった。井伏君もその一人で実に父親と瓜二つの顔をしていた事などとりとめもなく思い出した。

九月十三日

朝府中八大建設西山社長と会う。昼過ぎに研究室に戻り、午後モスクワの件で大学と打合わせの予定。日本の選挙も変なところがあるが、アメリカのニューオリンズの洪水も変なところを浮き彫りにした。白人黒人有色人種の根深過ぎる差別の問題だ。全く事件というのは世界の切断面を一瞬の中に露出する。

十二時前西山氏と府中でソバを喰べながら「寺」の話。良い寺をそろそろ手掛けたいので二人で、どうしたらいいんだろうなとつぶやき合う。O邸のメンテナンスは施主の理解もあり、上手くいっている。オリジナルよりグレードを上げて再生するだろう。

九月十四日

風さわやかな朝。秋だな。十時半ゼミナール。十三時半左官再生プロジェクトの予定。

ゼミ修了後、左官教室小林氏、水戸の根子左社長根子氏と会談。左官職再生計画のはじまりだが・・・全国には数万の左官事業所がある。その十分の一を組織化できれば、途方もないネットワークが出現するのだが、それを直観的に把握し得る人材が業界にいるか、どうか。IT屋であればすぐに動くだろうが、たちどころに各事業所の人的ポテンシャルに関してクールにつかみ取ろうとも、するだろう。この計画は職人の脱近代的組織化の問題である。マア出来るかどうか解らないが、取り組んでみるつもり。修了後、小林さんと食事。十七時半迄。